

アメリカ留学

インタビュー

文責：金澤伯弘

鹿児島大学共同獣医学部

画像診断学分野

准教授

三浦 直樹

<プロフィール>

鹿児島大学獣医学科を卒業後、山口大学大学院を経て動物病院勤務へ。その後、アメリカへ渡りコーネル大学獣医学部博士研究員を一年間、ケンタッキー大学農学部の **Gluck Equine Research Center** で4年間勤めたあとに、日本へと戻り、現在鹿児島大学共同獣医学部画像診断学分野 准教授として日々、臨床や研究を行なっている。



留学した理由

僕は大学院を卒業したあと、動物病院に勤めていたが他に行こうと思う所がなかったんで、実家に帰って実家の牧場を継ごうかと考えていた。だけど、本来海外留学する予定だった人が行けなくなったために、たまたまその海外留学の話が自分にまわって来て、んじゃ、行きますってことで行くことになった。もともと海外に行くつもりはあったけど、縁はなかったので、諦めていたが、話がまわってきたので、幸いだと思い留学した。

最初の一年はいく予定だった先生の代わりに、コーネル大学で犬や馬の関節のバイオマーカーの仕事をしていた。

しかし契約が一年で切れ、日本に戻ってもやることがなかったので、その後は、自分でコンタクトをとり、ケンタッキー大学の **Gluck Equine Research Center** に雇用され、馬のゲノムプロジェクト等をやっていたラボに所属して、4年間そこで関節軟骨のバイオロジーなどの仕事をした。

留学に必要な物

知的好奇心だね。あと、ポスドクでいくなら、**Ph.D** は必要。レジデントをとるなら、ドクターは必要ない。大学の先生としていくのと、フリーで行くのでは、あちら側の対応が違う。先生として行ったほうが扱いは良い。僕は、ポスドクで行ったので、ポスが気に入らなければ、すぐに首を切られる条件で留学した。

お金は必要。結婚してから留学したが、一年後には貯金がスッカラカンだった。研究者として留学するなら、最初の軍資金は百万ぐらい必要だと思って。車や住居費用などに必要。住む場所によってもかかる費用は違う。コーネルでは、家賃が10万位必要だったが、ケンタッキーではその半分くらいだった。

他には、**勇気、興味、物おじしない心**。分からないことがあったら、**隣の外人に、ねーねーって聞けることが大事**。

英語ができてから行くとかだと、なかなか行けない。飛び込んでいくのも大事。実際、自分はアメリカ行きが1月に決まり、4月にはアメリカに行っていた。英会話の勉強は、その間の3ヶ月くらいだった。

留学して得た物・良かった事

仲間ができたこと。今でもつながりがある。

留学したとき、色々な国の人が出て、色々な考えを学べた。本場の研究を見れたこと。

文化の違いに触れる。

他人を認め、人を嫌わないと友達ができる。

こういったことを経験するためにも学生は留学すべきだと思う。

いくらでも開放的になれるし、閉鎖的になれる。

どういう留学体験するかは、自分次第。

アメリカの大学は、研究レベルも高く、教育システムも違い、プロ意識がすごく高かった。専門性も日本より高いものだった。コーネル大学では、週に3日朝・昼にセミナーがあり、学生は誰でも参加可能で、獣医学を学ぶ上でとても環境が良かった。

これからの学生に対して一言

元気が一番、元気があれば何でもできる

アントニオ猪木

この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。
危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となる。
迷わず行けよ。行けばわかる

アントニオ猪木



「Go for broke」(当たって砕けろ)

マサ斎藤

